

地域活性化検討分科会 検討内容

むつ出身の人を呼び戻す

- ・「半田名部人」が参加できる楽しめる企画。
- ・田名部地域としての「活性化」は何か。
- ・むつ出身の人。戻ってきたい人もいるのではないか。住む場所。泊まる場所。イベントなど。
- ・人口が増えなければ活性化しない。

縦割り行政はダメ

- ・地域活性化に向けた取組は市商工観光課でも、観光を通じた取組を行っており、協働して検討することも検討が必要である。

質問

- ・まさかりプラザ？来さまい館？街の駅七福？活性化のための必要性。

魅力あるものをつくる

- ・魅力あるものをつくる。
- ・全国から色んな作品を集める。
- ・全国的。全県的。価値のあるもの。
- ・周りがセンス無くて困っている。
- ・クリエイターとして活かさせろ！！
- ・きれいにし過ぎない。美術的に工夫したもの。
- ・一つ一つ見たり、聞いたりしたくなるもの。

散策ルート

- ・散策ルートの設定が街を知ることになる。
- ・散策ルートづくりの手法は？
- ・散策ルートの設定。出発点と終着点を決めて設定する必要がある。
- ・区域外の徳玄寺、円通寺もコースに入れる。
- ・新たなテーマをもつ魅力有る店舗、会館、展示場の設定が必要。
- ・昔の建物の保存。昔の掘り起こし。
- ・旧田名部駅舎から下北労働福祉会館の移転。写真の展示会場に。建物はそのまま。

映画館

- ・映画館（ミニシアター）。
- ・むつ市に1箇所はあってほしい！

建物の耐震は大丈夫か

- ・建物の耐震も心配。
- ・本町。30人しか住んでいない。

川島雄三

- ・川島雄三絡みで日本の映画資料館。
- ・飲食店街の協力を得て、川島文化をつくる。
- ・川島雄三を紹介する展示場をつくる。

妖怪ハウス

- ・僕にお金をくれ。
- ・妖怪ハウスをテーマ別に空き店舗に展開。
- ・昭和レトロ → 妖怪ハウス、中野商店。
- ・妖怪まつりの復活。
- ・太郎伝がま（？）の協力を得て、妖怪をつくる。

集まる場所

- ・年間（を通して）人が集まる場の設定。子ども、老人など。集まる場から広がる。
- ・子どもと高齢者及び地域住民との交流の場の提供。子ども達の勉強の場。図書室。喫茶等々。市の図書館は19:00で終わってしまう。
- ・福祉、教育を内包した飛んでいる、面白いことをする。

- ・音楽イベントの開催（若者の場所づくり）。
- ・80年代が今のトレンド。

若者向け

地域活性化検討分科会

テーマ？魅力あること。楽しい事。

ハード

- ・魅力ある集まれる場所。
- ・魅力()
- ・場所()
- ・年代を問わない魅力？

ソフト

- ・みんなで取り組み街の活性化を図る。
(例) ・芸術の街。
・食べ歩きのできる街。
・イルミネーション。
・イベントで人を集める。
・人を呼び戻す。
・イベント関連。
- ・田名部の魅力を知ってもらいイベントをつくる。
(例) ・川島雄三の展示。
・妖怪祭りの復活。
・田名部の歴史を發してガイド付きの散策。
・吉幾三。(音楽イベント)。
- ・みんなが気にかかる、楽しめる、年齢や年代に関係のないイベント。

楽しいこと

- ・なんか楽しいことができないだろうか。

ストックを使う

- ・誰にでも興味のある分かりやすいもの。
- ・お金がかからない。
- ・既存の建物ハードを使って。
- ・お金をかけないでできるもの。

むつ市発

- ・むつ市発、田名部発をつくろう。
- ・これが田名部地域の顔、特色になるような。
- ・イカ寿司とかストックがある。
- ・昔は、7月12月に送る月を決めて送っていた。山菜レシピと一緒に送っていた。
- ・イベントにも組み込めそう。
- ・シャーマンキング。むつ市を舞台に描かれている。

中の人？外から？

- ・地元の人が楽しめるのが大事では。
- ・田名部出身が一時的でもすぐ参加できるイベント。寄れる場所。
- ・人の集まり方。中で集まる。外から集まる。
- ・外から来てこそその活性化ではないか。
- ・良いものはある。外から来た人でうおう。
- ・人が集まる。多くの人が参加できる。寄ってこれる町づくり。(イベント)

福祉のまち

- ・福祉のまち。高齢者デイサービスセンター。(介護)
- ・徹底して“高齢者のまち”でも良いのではないか。
- ・動ける高齢者。
- ・既に計画している法人がある。
- ・子供と高齢者が(共生)できる街。交流。

散策ルート

- ・散策ルートの設定。常念寺、田名部神社。
- ・昔の掘り起し。写真展。昭和をテーマ。
- ・街なか散策マップづくり。
- ・自分たちで自分の街を知る。
- ・散策ルート。短期間で可能？
- ・地域の人達とつながる。
- ・冬場も歩けるだろうか。季節で切り替える。
- ・文化遺産の公開、宣伝や田名部祭り→一時的。
- ・散策ルートの作成。
- ・散策ルートだけではさみしいかも。

スポーツ

- ・スポーツイベント。
- ・マラソン。
- ・ロードレース。

川島雄三 人を集められるか

- ・要望していくことで、実現していくもの。できればマツケンで川島作品のリバイバル。
- ・図書館の延長。
- ・川島雄三は少しマイナーでは。
- ・時間をかけて来るか下北まで行ってみよう。
- ・川島作品。日活100周年で取り上げられている。
- ・サイレント映画をやってみてはどうか。
- ・大会でも良い。
- ・例えば、映画館・図書館→常に。

第2回合同分科会

水

- ・いっぱい流れている水をうまく使えないか。
- ・冬は消雪に回って水が止まる。

冬は難しいか

- ・冬は冬なりのイベントもあるのではないか。
- ・すぐにスノーボードができるのはすごいこと。

要望したいこと

- ・旧田名部駅→大畑線→駅むすめに入れてもらう。
- ・廃止線でも作っている。Ex) 南部縦貫。
- ・H25年大河ドラマ。会津がテーマ。→斗南藩と下北。
- ・円通寺にかくまった場所がある。

地域活性化とは何か？

- ・地域活性化とは？ ・目標を決めよう。 ・今は平面的に色んなアイデアが出ている状態。
- ・この分科会の目指すところを決めたほうが良い。・街のアイデンティティを活かした方法を。

住んでる人があずましい、楽しい

- ・住んでいる人があずましい地域か。
- ・住んでいる人が楽しくなきゃ、人も集まらない。
- ・地域活性化⇒コミュニティづくりが大事。

交流を生む場所づくり

- ・世代間の隔たりが大きくなっている。
- ・交流を生まなければ。⇒場所づくり。

外から人を集めてにぎわいをつくりだす

- ・イベントで人を集めてにぎわいを求めるのか。

『川島雄三』をうまく活用 ②

- ・川島をうまく使おう。活用しよう。
- ・川島雄三はメジャーでしょ。⇒幅広く広報できれば。
- ・知れば人は集まる。
- ・どうやって人に伝えるか。
- ・名前にたよった人集めはムリ。⇒どういう演出をするか。『やる』だけではムリ。
- ・川島だけでは集まらない。
- ・映画祭など。
- ・川島雄三を利用した映画祭を。川島雄三限定の映画祭ではない。
- ・川島で来る監督もいる。

田名部祭 ③

- ・田名部祭は人が集まる。
- ・余所から見ると感動する。
- ・うまく活用しないとイケない。
- ・重要文化財の指定を受けるように頑張っている。
- ・人も少なくなってきた。⇒来るものを拒まずにしていけないと。
- ・地元の子どもは引っ張っているだけで楽しい。
- ・五所川原の立佞武多 ⇒電線地中化。
- ・電線を上げることも風情。
- ・田名部川と田名部祭。

図書館 ①

- ・Ex)図書館。来さまい館を使ったらどうか。
- ・アウガが成功しているのは、図書館だけ。
- ・古本を集めて無料で貸す方法も。
- ・インターネットが繋がらないと。
- ・ぷらっと図書館。

行政サービス

- ・市役所が遠い。⇒一部の行政サービスを持ってくる。

福祉のまち

- ・福祉のまち。⇒居住環境では。
- ・高齢者だけになって、ボランティアだけではできない。雪かき。

散策ルート

- ・散策ルート。←地域のアイデンティティ。街の歴史。
- ・この“まち”のアイデンティティを取り入れることが必要。
- ・テーマが必要。田名部祭、川島雄三など。
- ・地元を知る。散策ルートをつくるのが知ることにつながる。
- ・まずは街の人間が“知る”。
- ・公共施設分科会と合同でやってはどうか。(散策ルート)

公共施設部会と合同で。

居住環境部会へ。

妖怪ハウス

- ・妖怪ハウスも忘れてはならない。
- ・既にあるものを使わないと。
- ・販売なのか展示なのかわからない。
- ・不特定多数の人がみる場合に、消防など無視できない。

⇒ 飛内部会を つくって検討! ?

どこにつくるか

なぜ図書館なのか？図書館のテーマ

- なぜ図書館をつくるのか。
- 図書館は少し遠い。
- 色んな人が集まって過ごせる場所。
- 交流を生む図書館。
- 身近にある図書館の良さ。
- コミュニティづくり。
- 地元の人への利便性。

人が集まって交流が生まれる

もう少し気軽に行ける感じに。

- 図書館？
- もう少し軽くコーナーとか。
- むつ市図書館の分館をつくるのも方法。
- 分館ではなくコーナー。
- みんなの図書館。

図書コーナー

図書館とはターゲットが違う

- 読みたい本があれば
- 少しぐらい遠くても行くのでは。
- スーパーとコンビニの違い？
- コンビニのような品ぞろえ？
- 本ぞろえ？
- ターゲットが違うか？

EX) まちの駅の利用層

- 旅行者、高校生、仕事帰りの方。
- 違う形で同じような場所があっても良いのでは。
- お金をかけなくても過ごせる場所。
- 歩行者の利用者がメイン。

来さまい館

- 来さまい館一階のスペース。
- スッと入れる感じにできないか。
- ホスピタリティ。挨拶とか。
- 入りにくいのでは。駐車スペースは有るのに
- 自転車置き場は最低限必要。
- 商工会議所の事業にできないか。
- 人員は管理組織で出す。
- 場所代賃料が必要になるのではないか。

まちの駅

- まちの駅はどうか。
- 駐車場・駐輪場がない。

空き店舗

- 環境が整ってれば、
- 空き店舗でも良いが。
- 経費が掛かりすぎる。

蔵書

- 蔵書は図書館の協力が必要。
- 一定期間、市図書館から蔵書を貸す。
- テーマに沿ってとか。
- 移動図書館。ほほえみ号があるから。
- 古本銀行。
- ⇒同じ本が集まる。歯抜けのシリーズ本とか。
- 本が重なったり管理するのも大変。

- 来さまい館を中心にしたまちづくり。
- 来さまい館の利用率を上げる。

本の管理

- 本の管理をどうするか。
- 人員は配置する。
- 管理。グループ・組織が必要。
- 図書館と同等の管理ができないと。
- 市の図書館。⇒バーコード管理。
- 同じことできる？
- ボランティアに頼るしかないか。
- 地元の人やらないと続かない。
- 田名部まちなかに限定しなければ
- 人材はいる。
- 2~3人のローテーション。
- 行政の支援が必要不可欠。
- NPO法人高知こどもの図書館。

市図書館にはない特徴が必要

- その場所ならではの特徴。
- 図書館にはないもの。

開かれた図書館に

- 貸し出しはしない。スペースの中で。
- オープンスペース。自販機程度。
- 開かれた図書館。話してもOK。
- 飲みものぐらいOK。

飲食OK

- 文庫しかないけど、
- 飲食はOKとか。

営業時間

- 仕事帰りに寄る。
- ⇒17時だと早い。

本の種類、蔵書

- 本の種類とか。
- 市の図書館には無いものがある図書館。
- めずらしい本とか。
- ex) 全国から集める。ネットとか。送料はもつけど。
- むつ市には本屋さんが少ない。
- テーマをもった蔵書、コーナー。
- コンビニに置いている雑誌だと興冷め。
- 専門誌が少ない。
- 専門誌。⇒持ち出し厳禁とか利用を分ける。

蔵書は図書館と連携

ボランティアの管理組織を設立
行政の支援は不可欠

収入を得る仕組みづくり

- どの程度の飲食？
- 軽食くらいは提供して収入に繋がらないか。
- わずかな収入でできる事。本の調達。
- 古本を集めるシステムも必要。
- 立ち上げ当初はボランティア。
- 収入につなげる古本市とか。

検討中の事業「(仮)まちなか図書室をつくろう」

<目的>

○交流場所、滞留場所をつくる

- ・高齢者から子どもの交流。
- ・まちなかに滞留場所を。
- ・バス利用者などの滞留場所。



○現実的に考えると単独ではムズかしい

- ・実現させるため。現実的に考えると…。
- ・図書室。単独では難しい。
- ・図書館。単独では採算が取れない。



○市の分室など他のサービスと合わせ技で

- ・市の分室、出張所と合わせ技で。
- ・市の分室と出張所を合わせると確実に人が来る。
- ・併設でも隣接でも良い。
- ・市では連絡所はつくらない。
- ・続けていくためには。

○図書館にはない特徴を持たせる

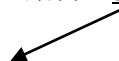
- ・貸し出しはしない。その場で読む。
- ・飲み物はOK。

○蔵書は市図書館が借り受ける

- ・月毎のローテーションなど。
- ・将来的には“古本銀行”などで、独自の蔵書・独自の収入も。

○本の管理はボランティアで (←少しは賃金も)

- ・組織を立ち上げる。



○決まっていない事、協議が必要な事

- ・場所：来さまい館、まちの駅など。
- ・蔵書を貸してもらえるか。
そもそも。

図書室づくりの目的

- ・図書室づくりが目的ではなく手段。
- ・中心市街地の活性化が目的。

体制づくり

- ・県から借りるならしっかり体制づくりを。
- ・商工会議所を巻き込まなければ。
- ・図書館だけでは採算は取れない。⇒商工会議所は乗らない。

人が集まりたいと思う機能

- ・箱物優先で考えると先が見えなくなる。
- ・場所よりも先に。
- ・他の機能を考える。
- ・自然に人が集まりたいと思わせる機能。
- ・可能性の範囲で。

例えば。。

- ・川内の“まちな駅”は人が集まっている。
- ・市の出先機能⇒発券機でも。
- ・ex) 柏市、空き店10坪ジム。健康器具を置いた。どんどん増えた。

高齢者が子どもに様々な遊びを教える

- ・高齢者と子どもの交流。
- ・日替わりで様々な文化や遊びを教えてもらう。
- ・教えてくれる大人。教えてもらう子ども。連れてくる親。

教える人：高齢者、ボランティア

- ・参加してもらえる人、ボランティアで教えてくれる人。
- ・ボランティアだから面白い場合もある。
- ・ゆとり教育。⇒学校に教えに行った人いるのでは。
- ・人材バンク。

何を教えるか：遊び方や作り方

- ・将棋、昔は子ども～高齢者が集まってさしていた。
- ・将棋、囲碁、コマ回し、習字など。
- ・糸巻き、割りばし鉄砲、竹ひご飛行機。
- ・お手玉、ビーズ
- ・昔の作り方、遊び方。

将棋、コマ回し、鉄砲、糸巻き 等々

教わる人：子ども、小学校にチラシ

- ・どうやって集める？
- ・小学校に配布する。(子どもは)
- ・申し込み。当日の飛び入りも可。

塾でも加チャースクールでもない

- ・最初から日～土まで埋まらなくても少しずつ増やしていければ。
- ・塾ではない。
- ・「カルチャー」はダメ。集まらない。

定期的に少しずつ増やしていく

図書も一緒に

- ・図書コーナー。市図書から仮受け。
- ・読み聞かせサークルと一緒に。
- ・将棋の本など関連した図書ならその場で読める。

どこで：外から見える場所

- ・やっているのが見える場所。
- ・気軽に様子が見える所。

飲食は自販機のみ

- ・買わなきゃいけない雰囲気はダメ。
- ・飲む飲まないも選べるように自販機。

参加費は材料費程度

- ・数百円の材料費は仕方ないかも。

運営するにはお金も必要

- ・補助金は出ないか。
- ・市の単独。補助金は有る。30万～40万くらい。

実施主体をどうするか

誰がやる？

- ・実際に誰がやるかが一番重要な問題。
- ・他の分科会の提案も合わせなければ。

協議会？ NPO？ まちづくり会社？

- ・協議会は実施団体にはならない。
- ・計画団体、実施団体の違い。
- ・任意団体はダメ。NPOかまちづくり会社。
- ・分科会がアイデアを出す。協議会が採用する。
- ・採用する段階で事業主体がいなければ採用の判断でもない。
- ・NPOをつくるまでもない事業規模では採用されない？

商店街振興組合？ NPO ひろば？

- ・協議会自体がまちづくり会社になる？
- ・NPO ひろば、振興組合を引っ張り込まないとダメ。
- ・田名部駅前商店街。H27まで活性化事業に乗せる方法もある。